

リレー回想



笑いと共に歩んで

関 英一 (山部)

「すみません教育委員会です。あの〜また笑いをテーマとした講師として落語口演をお願いしたいんですが…」「えっ、まだですか、弱ったなあ〜…」などといった会話をかわしつつ、当日が来れば喜んでいそいそと着物を抱えて出前寄席に出かけて行く。こんな私めの通称は「水道家関ちゃん」、ふだんの職業はその芸名の

通りかたぎの水道屋さんであります。

こんな私が落語と出会ったのは大学時代で、入学後すぐに落語研究会、通称「オチケン」に入部。その後は勉強に見向きもせずひたすら芸道一筋笑いを求めて歩むこととなりますが、当時そんな我々が師事したのが人気者林家三平、月の家円鏡を弟子に持つ、当人はまったく人気の出なかった七代目橋家円蔵師匠。老齢で小柄でオオカミのミイラみたいに痩せて、やたら眼だけがギョロギョロ光っていた実に恐ろしい大師匠でありましたが、自宅へお寄りしたり、合宿で寝食を共にしたり、ハワイにまで同伴して一緒に落語を演ったりと、実に面倒見の良

い師匠でもありました。

そんな良き時代の二年後輩にいたのが今東京の落語界で活躍している桂小文治師匠で、「津金寺観音寄席」などを通して共に高座に上がり、いまだに親交を温めております。そのような下地のもと、この年になっても恥も外聞もなくお声がかかればどこへでも顔を出す関ちゃんでありますが、もしご縁がありましたら誠に一席お聴き下さいませ。



クラブ訪問

ときめき大正琴

若林 良子 (藤沢)

公民館活動として始め生涯学習の一環として、ときめきグループの教室がいくつか作られ大正琴もその一つとして今日まで活動してきました。

当初は、老人福祉センターの畳の部屋で練習をしていました。今は中央公民館の視聴覚室をお借りして、月二回基本的には、第一・第三木曜日の午後一時半よ

り練習しています。内一回は先生に来町して頂き二回目は自主練習をしています。

大正琴、琴伝流の発祥の地は長野県伊那市飯島町の小林源一郎さんという方が始められたということです。現在全国で大正琴の愛好家は数万人ともいわれて全国大会や県大会などがなっています。私達、ときめき大正琴の仲間、立科町での芸能グループ発表会や敬老の日に参加し発表させて頂いております。大正琴の美しい音色に魅了され、昔懐かしい歌謡曲や新しい曲など自分たちの手でしか奏でられないことを楽しみに練習に励んでいます。大正琴の大好きな仲間達と月二回練習の合間にはお茶を飲みながら世

間話に花を咲かせにぎやかに練習をしています。大正琴は、指の運動にもなり、また頭を使いボケ防止には最適です。大正琴をやってみたい人など、大正琴に興味のある方は、

どうぞいつでも入会可能ですのでどうぞお気軽にいつでも見学することができまのでお出かけください。お待ちしております。



編集後記

昨年10月、わが家に家族が増えました。待ちに待った初めての赤ちゃん体重2600グラムの大きな目をした男の子。少し小さめの子でしたが、しっかりと私の指を握り、大きな声で泣いているわが子を見て、自分が父親になったことを実感し、無事に産まれてきてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいでした。あとわずか1歳になる息子は、父親の私にそっくりで、抱っこして歩いていると「お父さんにそっくりですね。」とよく言われます。

現在、息子の体重は9キロで前歯が上下合わせて7本も生えてきて、産まれたころと比べるとだいぶ大きくなり、手をたたいて笑い、自分の足でしっかりと立ち、何でもよく食べる元気な子に育っています。

共働きをしている私たち夫婦は、妻の育児休暇が終わると同時に、保育園へ。自営業をしている私は、仕事の合間に息子の顔を見に行くのを楽しみにしていますがそれができなくなると残念です。

未満児からの入園で少し心配ですが、息子のこれからの長い人生の第一歩を応援したいと思います。

K・S